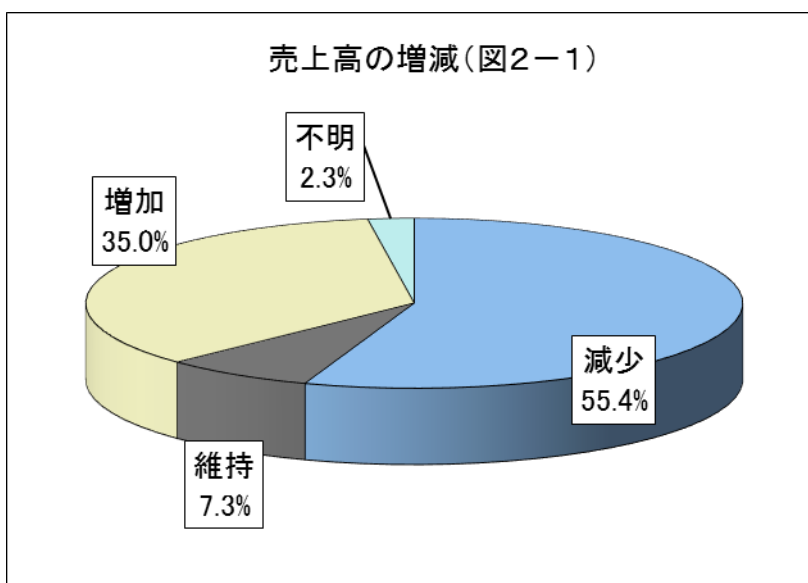


2 営業成績の状況

(1) 売上高の増減

仲卸業者全体のうち、35.0%の業者が前期に比べ売上高が増加した。一方で、55.4%の業者が売上高を減少させている。前年と比べると、増加した業者の割合は3.3ポイント下降した一方で、減少した業者の割合は8.8ポイント上昇している。

※ 前年調査 増加 38.3%、維持 11.5%、減少 46.6%、不明 3.6%



部類別にみると、水産物部・青果部・花き部は減少した業者が最も多かった。また、食肉部では増加した業者が最も多かった。

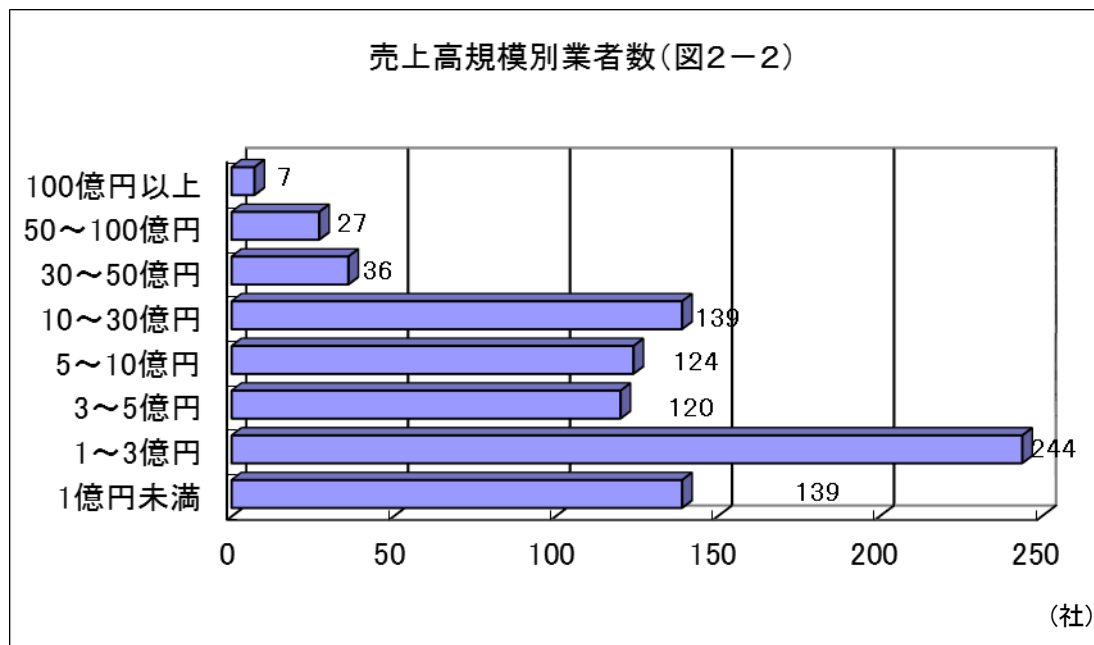
部類別・売上高の増減(表2-1)

	増加した業者	維持した業者	減少した業者	不明
全 体	35.0%	7.3%	55.4%	2.3%
水 産 物 部	34.9%	7.0%	55.3%	2.8%
青 果 部	32.6%	7.0%	59.7%	0.7%
花 き 部	30.0%	20.0%	42.5%	7.5%
食 肉 部	70.8%	-	29.2%	-

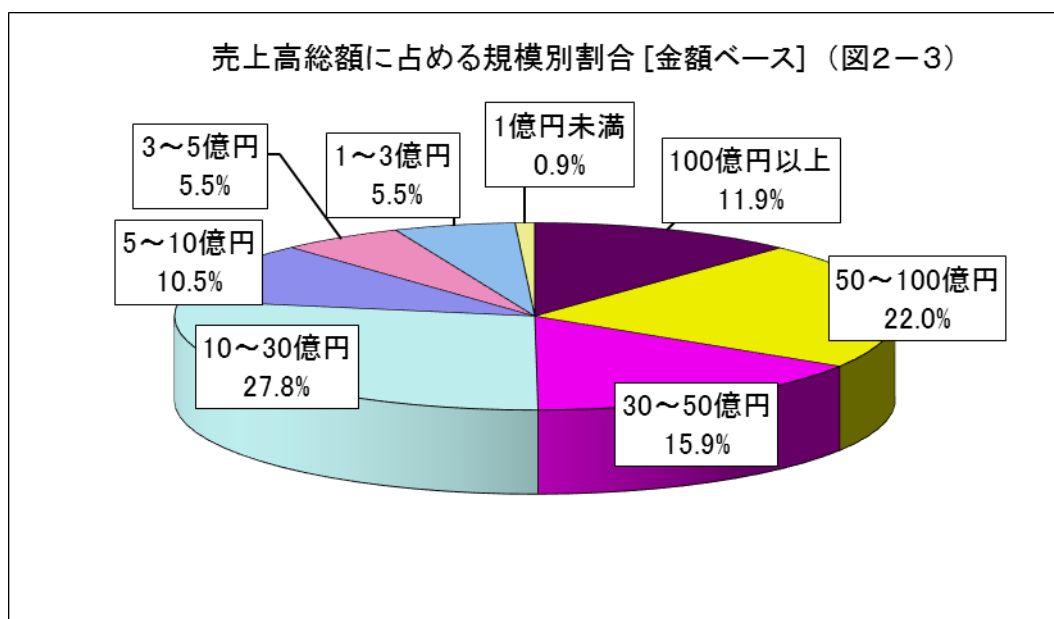
※ 維持は、前年比1%未満の増加及び減少。

(2) 売上高の規模別業者数

仲卸業者全体のうち、売上高1億円以上3億円未満の業者が最も多い。また、売上高が3億円未満の業者で全体の45.8%(383社)を占めている。



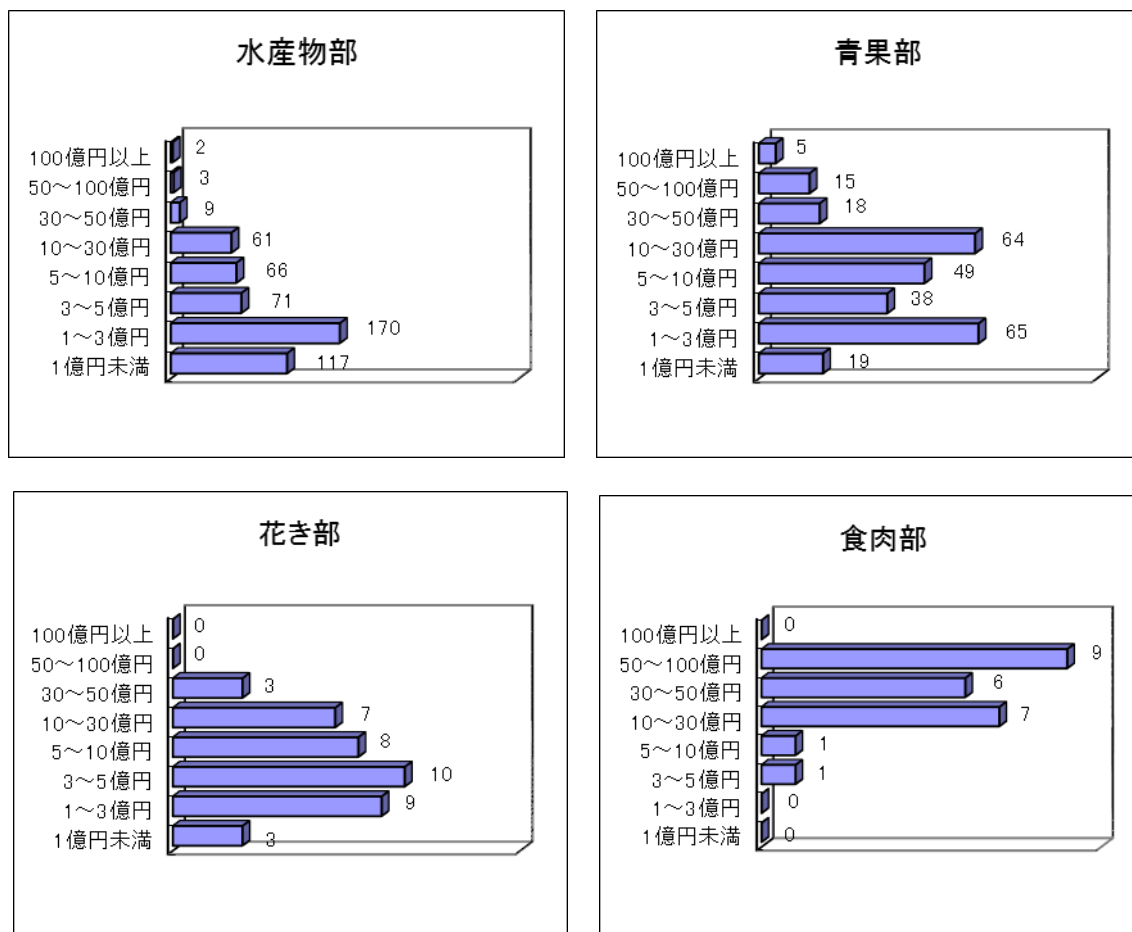
金額ベースにした売上高総額に占める規模別割合で見ると、半数近くを占める売上高3億円未満の業者のシェアは6.4%に留まっている。



(3) 売上高の規模別・部類別業者数

部類別にみると、水産物部では売上高1億円～3億円の層が、青果部では1億円～3億円の層が、花き部では3～5億円の層が、食肉部では50億円～100億円の層が最も多くなっている。

売上高規模別・部類別業者数（図2-4）



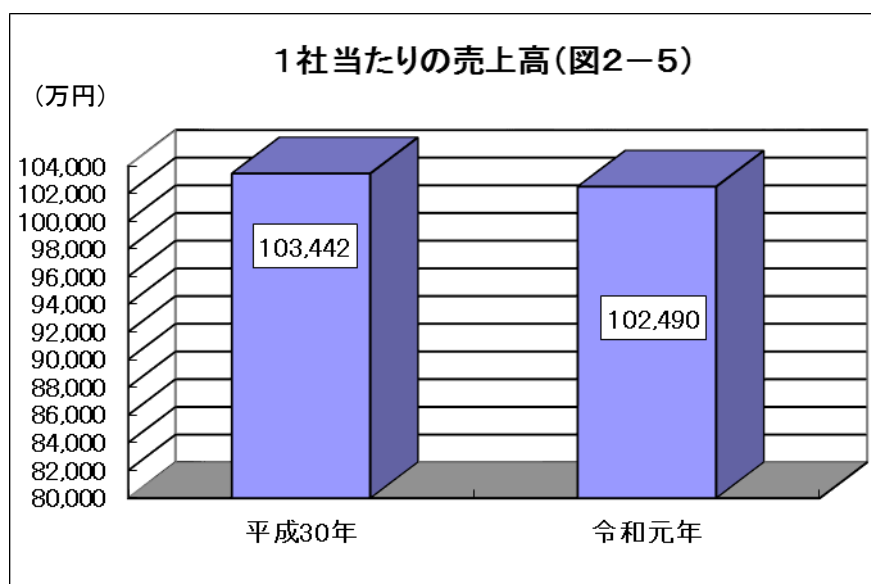
売上高規模別・部類別業者数（表2-2）

単位：社

	全 体	水 産 物 部	青 果 部	花 き 部	食 肉 部
100億円以上	7 (0.8%)	2 (0.4%)	5 (1.8%)	0 (—)	0 (—)
50～100億円	27 (3.3%)	3 (0.6%)	15 (5.5%)	0 (—)	9 (37.5%)
30～50億円	36 (4.2%)	9 (1.8%)	18 (6.6%)	3 (7.5%)	6 (25.0%)
10～30億円	139 (16.5%)	61 (12.2%)	64 (23.5%)	7 (17.5%)	7 (29.1%)
5～10億円	124 (15.0%)	66 (13.3%)	49 (18.0%)	8 (20.0%)	1 (4.2%)
3～5億円	120 (14.3%)	71 (14.3%)	38 (14.0%)	10 (25.0%)	1 (4.2%)
1～3億円	244 (29.4%)	170 (34.1%)	65 (24.0%)	9 (22.5%)	0 (—)
1億円未満	139 (16.5%)	117 (23.3%)	19 (6.6%)	3 (7.5%)	0 (—)
合 計	836	499	273	40	24

(4) 1社当たりの売上高

仲卸業者全体の1社当たりの売上高は、前年の10億3,442万円から10億2,490万円と、952万円(0.9%)減少した。



部類別にみると、前年に比べ食肉部は増加し、青果部と花き部は減少した。水産物部ではあまり変動はなかった。

1社当たりの売上高(表2-3)

	平成30年	令和元年	増減率
全 体	103,442 万円	102,490 万円	99.1%
水 産 物 部	57,676 万円	57,993 万円	100.4%
青 果 部	163,573 万円	157,871 万円	96.5%
花 き 部	90,130 万円	86,884 万円	96.4%
食 肉 部	400,783 万円	424,962 万円	106.0%

(5) 売上総利益率の変化

売上総利益率(いわゆる粗利益率)は、全体では前年に比べ0.33%上昇した。部類別にみると、水産物部、青果部及び花き部では上昇し、食肉部では下降した。

売上総利益率(表2-4)

	平成30年	令和元年
全 体	13.18%	13.51%
水 産 物 部	14.78%	15.47%
青 果 部	12.91%	13.08%
花 き 部	17.76%	18.53%
食 肉 部	8.04%	7.99%

売上総利益率が上昇した業者数と下降した業者数の割合をみると、全体では上昇した業者が下降した業者を上回った。部類別では、水産物部、青果部及び花き部では上昇した業者が下降した業者を上回った。食肉部では下降した業者が上昇した業者を上回った。

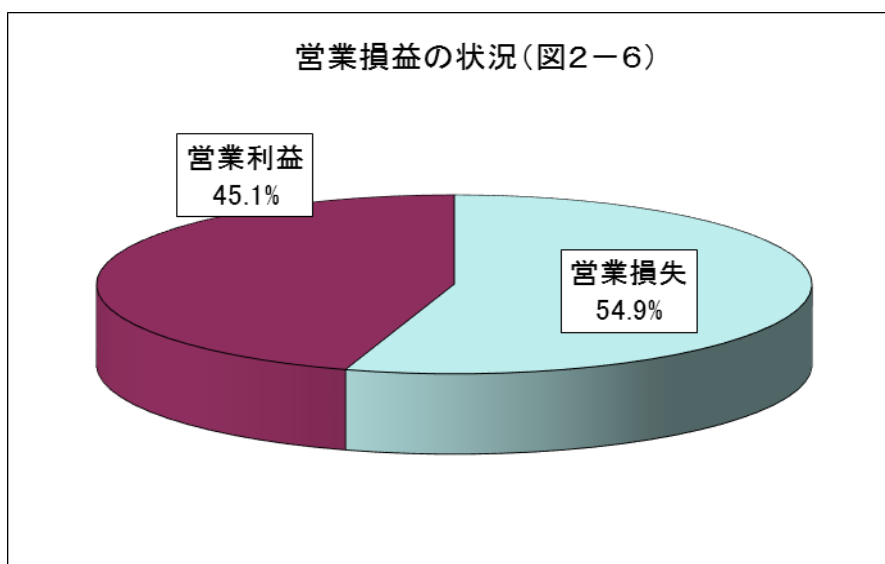
売上総利益率の変化(表2-5)

	上昇した業者	下降した業者	不明
全 体	60.2%	37.5%	2.3%
水 産 物 部	58.5%	38.7%	2.8%
青 果 部	66.7%	32.6%	0.7%
花 き 部	47.5%	45.0%	7.5%
食 肉 部	41.7%	58.3%	-

(6) 営業損益の状況

営業利益(黒字)を計上した業者の割合が45.1%、営業損失(赤字)を計上した業者の割合が54.9%となり、前年に比べ黒字となった業者の割合が減少した。

※ 前年調査 黒字:赤字 = 52.9% : 47.1%



部類別にみると、水産物部では半数以上の業者が赤字となり、青果部、花き部、食肉部では半数以上の業者が黒字となった。

営業損益の状況(表2-6)

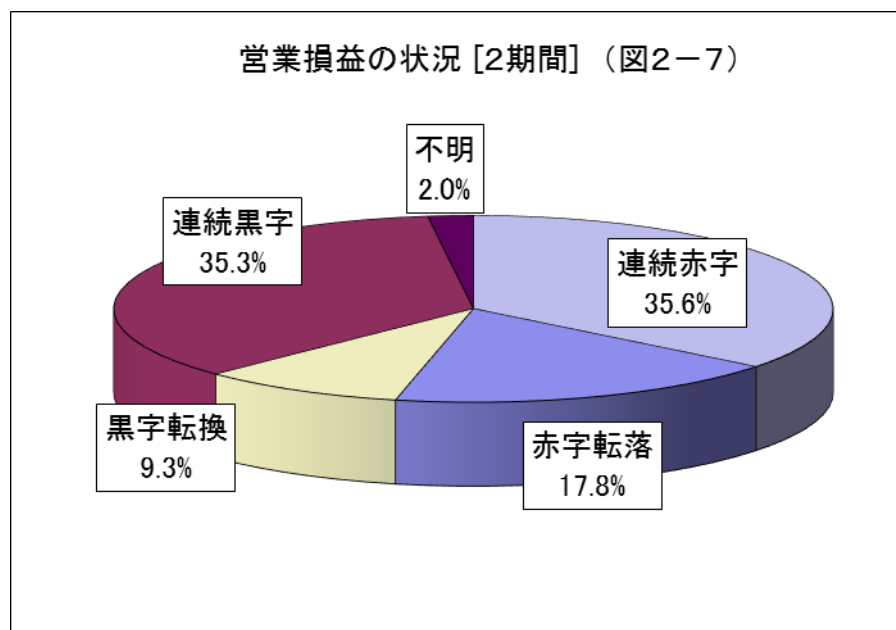
() 内は前年調査の数値

	営業利益 [黒字業者]	営業損失 [赤字業者]
全 体	45.1% (52.9%)	54.9% (47.1%)
水 産 物 部	39.9% (48.3%)	60.1% (51.7%)
青 果 部	50.5% (57.7%)	49.5% (42.3%)
花 き 部	55.0% (62.2%)	45.0% (37.8%)
食 肉 部	75.0% (80.0%)	25.0% (20.0%)

(7) 営業損益の状況(2期間)

営業損益が2期連続して黒字計上となった業者は35.3%、2期連続して赤字計上となった業者は35.6%となった。黒字に転換した業者は9.3%、赤字に転落した業者は17.8%となった。

※ 前年調査 連続黒字40.8%、黒字転換16.9%、赤字転落13.4%、連続赤字31.3%



部類別にみると、2期連続して黒字となった業者の割合は、食肉部が最も多かった。また、黒字に転換した業者の割合は青果部が最も多く、赤字に転落した業者の割合及び2期連続して赤字となった業者の割合は、水産物部が最も多かった。

営業損益の状況(2期間)(表2-7)

()内は前年調査の数値

	連続黒字業者	黒字転換業者	赤字転落業者	連続赤字業者	不明
全 体	35.3% (40.8%)	9.3% (16.9%)	17.8% (13.4%)	35.6% (31.3%)	2.0% (3.6%)
水産物部	29.5% (36.2%)	9.4% (11.4%)	19.0% (14.0%)	39.3% (34.8%)	2.8% (3.6%)
青 果 部	41.1% (45.4%)	9.5% (11.0%)	17.2% (13.4%)	32.2% (27.1%)	- (3.1%)
花 き 部	47.5% (48.7%)	7.5% (8.1%)	10.0% (10.8%)	27.5% (24.3%)	7.5% (8.1%)
食 肉 部	70.8% (76.0%)	4.2% (-)	12.5% (4.0%)	12.5% (16.0%)	- (-)

(8) 営業利益率の変化

営業利益率は、全体では前年に比べ下降した。部類別にみると、全ての部において下降し、水産物部では2期連続して赤字となった。

営業利益率(表2-8)

	平成30年	令和元年
全 体	0.57%	0.33%
水 産 物 部	△0.02%	△0.23%
青 果 部	0.84%	0.64%
花 き 部	0.60%	0.59%
食 肉 部	1.13%	0.51%

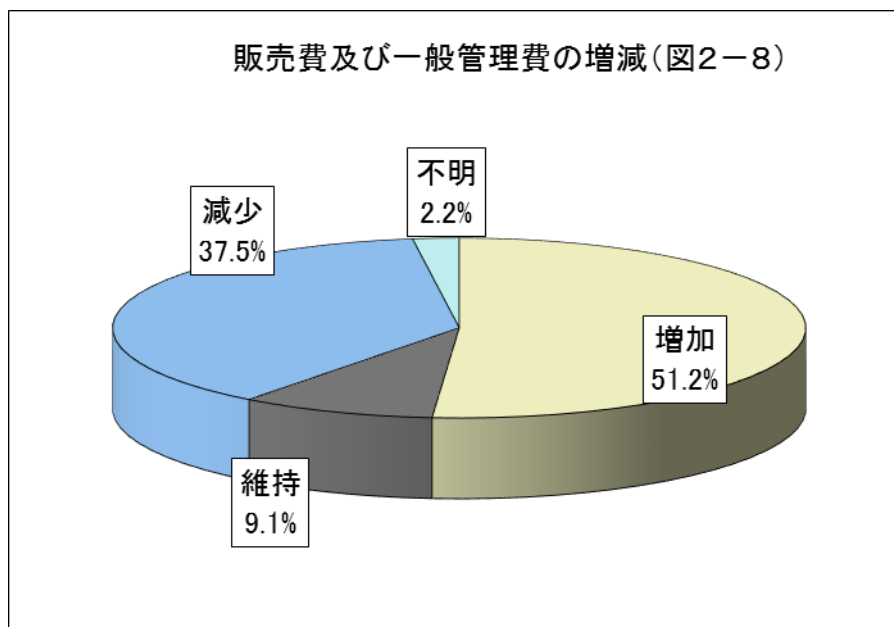
営業利益率が上昇した業者数と下降した業者数の割合を部類別にみると、全ての部において下降した業者が半数以上となり、上昇した業者を上回った。

営業利益率の変化(表2-9)

	上昇した業者	下降した業者	不明
全 体	38.6%	59.1%	2.3%
水 産 物 部	38.7%	58.5%	2.8%
青 果 部	39.6%	59.7%	0.7%
花 き 部	42.5%	50.0%	7.5%
食 肉 部	20.8%	79.2%	-

(9) 販売費及び一般管理費の増減

販売費及び一般管理費(以下、「販管費」)が減少した業者は37.5%、増加した業者は51.2%となった。



部類別にみると、水産物部、青果部及び食肉部では販管費が増加した業者が減少した業者を上回り、花き部では減少した業者が増加した業者を上回った。

販売費及び一般管理費の増減(表2-10)

	増加した業者	維持した業者	減少した業者	不明
全 体	51.2%	9.1%	37.5%	2.2%
水 産 物 部	52.1%	8.0%	36.9%	3.0%
青 果 部	51.3%	9.5%	39.2%	-
花 き 部	32.5%	17.5%	42.5%	7.5%
食 肉 部	62.5%	12.5%	25.0%	-

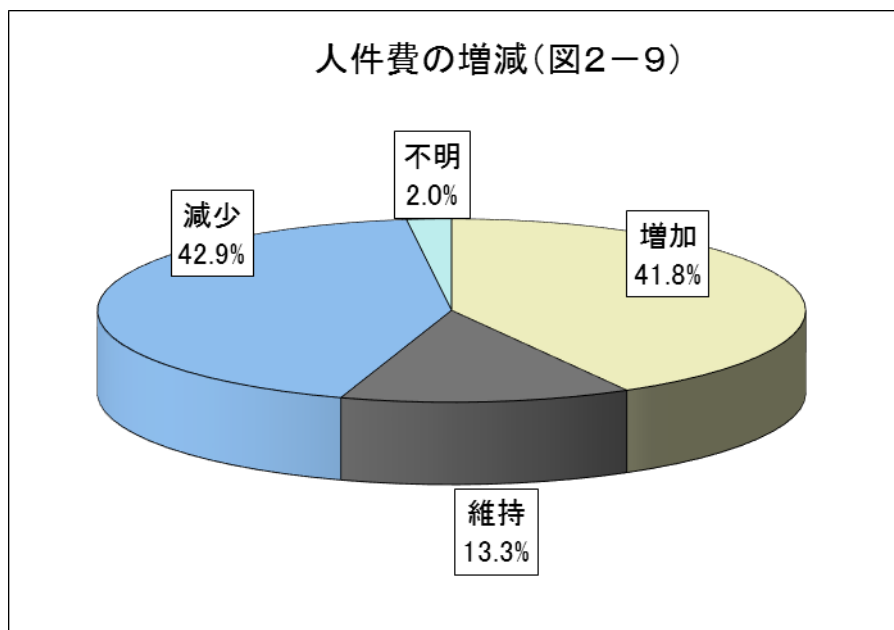
※ 維持は、前年比1%未満の増加及び減少。

(10) 人件費の増減

人件費(※)が増加した業者は41.8%、減少した業者は42.9%、維持した業者は13.3%となり、減少した業者が増加した業者をわずかに上回った。

※ 人件費 役員報酬、給与手当、福利厚生費、退職共済掛金 等

※ 前年調査 増加41.6%、維持16.2%、減少38.6%、不明3.6%



部類別にみると、青果部及び食肉部では増加した業者が減少した業者を上回り、水産物部及び花き部では減少した業者が増加した業者を上回った。

人件費の増減(表2-11)

	増加した業者	維持した業者	減少した業者	不明
全 体	41.8%	13.3%	42.9%	2.0%
水 産 物 部	37.9%	14.8%	44.5%	2.8%
青 果 部	46.9%	10.6%	42.5%	-
花 き 部	37.5%	12.5%	42.5%	7.5%
食 肉 部	70.8%	12.5%	16.7%	-

※ 維持は、前年比1%未満の増加及び減少。

(11) 人件費比率の変化

売上高対人件費比率は、全体では前年に比べ0.35ポイント上昇した。部類別にみると、全ての部において上昇した。

売上高対人件費比率(表2-12)

	平成30年	令和元年
全 体	6.30%	6.65%
水 産 物 部	7.94%	8.63%
青 果 部	5.77%	5.93%
花 き 部	9.02%	9.47%
食 肉 部	2.90%	3.10%

売上総利益対人件費比率は、全体では前年に比べ上昇した。部類別にみると、全ての部において上昇した。

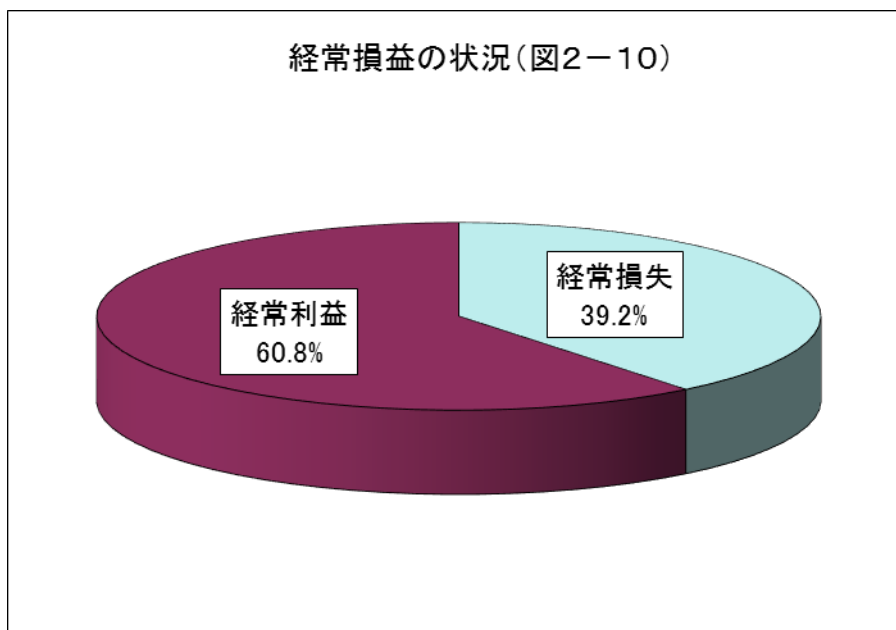
売上総利益対人件費比率(表2-13)

	平成30年	令和元年
全 体	47.81%	49.20%
水 産 物 部	53.70%	55.76%
青 果 部	44.69%	45.30%
花 き 部	50.77%	51.08%
食 肉 部	36.09%	38.75%

(12) 経常損益の状況

経常利益(黒字)を計上した業者の割合は60.8%、経常損失(赤字)を計上した業者の割合は39.2%と、前年に比べ黒字業者の割合が7.9ポイント下降した。

※ 前年調査 黒字:赤字 = 68.7% : 31.3%



前年と比較すると、花き部は黒字業者の割合が増加し、水産物部、青果部及び食肉部は黒字業者の割合が減少した。

経常損益の状況(表2-14)

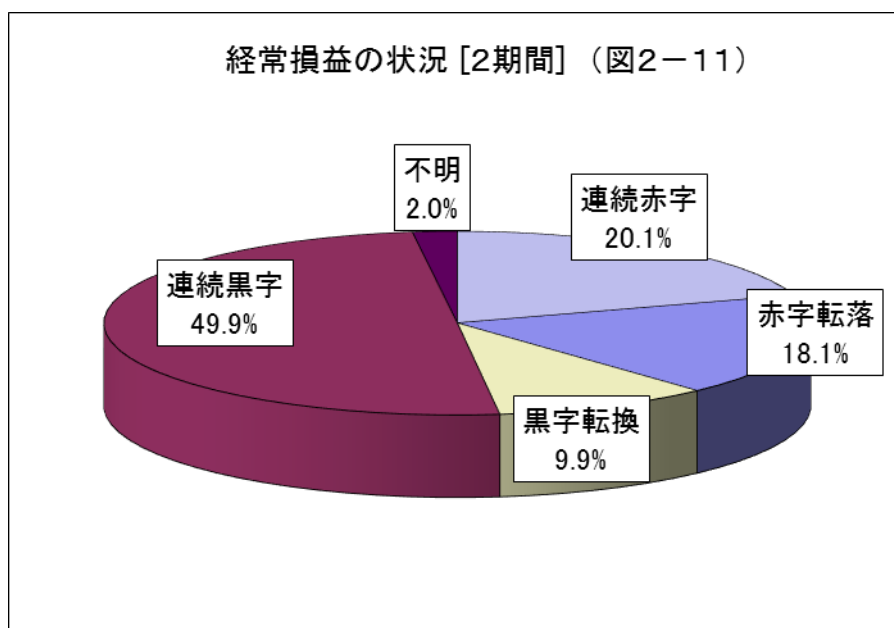
() 内は前年調査の数値

	経常利益 [黒字業者]	経常損失 [赤字業者]
全 体	60.8% (68.7%)	39.2% (31.3%)
水 産 物 部	55.5% (65.0%)	44.5% (35.0%)
青 果 部	67.4% (74.6%)	32.6% (25.4%)
花 き 部	70.0% (62.2%)	30.0% (37.8%)
食 肉 部	79.2% (88.0%)	20.8% (12.0%)

(13) 経常損益の状況(2期間)

経常損益が2期連続して黒字計上となった業者は49.9%となり、前年に比べると下降した。2期連続して赤字計上となった業者は20.1%となり、前年に比べると上昇した。また、黒字に転換した業者の割合は9.9%、赤字に転落した業者の割合は18.1%となった。

※ 前年調査 連続黒字54.2%、黒字転換12.5%、赤字転落10.6%、連続赤字19.1%



部類別にみると、全ての部類で連続黒字業者の占める割合が最も多かったが、半数以上を占めるのは青果部、花き部及び食肉部だった。

経常損益の状況(2期間)(表2-15)

() 内は前年調査の数値

	連続黒字業者	黒字転換業者	赤字転落業者	連続赤字業者	不明
全 体	49.9% (54.2%)	9.9% (12.5%)	18.1% (10.6%)	20.1% (19.1%)	2.0% (3.6%)
水産物部	44.2% (50.0%)	10.0% (13.9%)	19.8% (9.4%)	23.2% (23.1%)	2.8% (3.6%)
青 果 部	57.5% (59.4%)	9.9% (12.4%)	17.2% (13.4%)	15.4% (11.7%)	- (3.1%)
花 き 部	52.5% (54.1%)	15.0% (2.7%)	5.0% (10.8%)	20.0% (24.3%)	7.5% (8.1%)
食 肉 部	79.2% (84.0%)	- (-)	12.5% (4.0%)	8.3% (8.0%)	- (4.0%)

(14) 経常利益率の変化

経常利益率は、全体では0.78%と前年を下回った。部類別にみると、全ての部において下降した。

経常利益率(表2-16)

	平成30年	令和元年
全 体	0.89%	0.78%
水 産 物 部	0.56%	0.48%
青 果 部	1.05%	1.01%
花 き 部	0.75%	0.66%
食 肉 部	1.17%	0.71%

経常利益率が上昇した業者数と下降した業者数の割合を部類別にみると、全ての部において下降した業者が上昇した業者を上回った。

経常利益率の変化(表2-17)

	上昇した業者	下降した業者	不明
全 体	40.0%	57.7%	2.3%
水 産 物 部	41.1%	56.1%	2.8%
青 果 部	39.6%	59.7%	0.7%
花 き 部	40.0%	52.5%	7.5%
食 肉 部	20.8%	79.2%	-

(15) 従事員1人当たり売上高

従事員1人当たり売上高は、全体では前年に比べわずかに増加した。部類別では、青果部では増加し、花き部と食肉部では減少した。また、水産物部ではほぼ同じだった。

従事員1人当たり売上高(表2-18)

	平成30年	令和元年
全 体	8,414 万円	8,427 万円
水 産 物 部	6,481 万円	6,475 万円
青 果 部	9,710 万円	9,997 万円
花 き 部	4,458 万円	3,999 万円
食 肉 部	19,920 万円	19,501 万円

従事員1人当たり売上高が増加した業者数と減少した業者数の割合を部類別にみると、青果部及び花き部では減少した業者が増加した業者数を上回り、食肉部では増加した業者が減少した業者を上回った。また、水産物部では増加した業者と減少した業者がほぼ同じだった。

従事員1人当たり売上高の増減(表2-19)

	増加した業者	減少した業者	不明
全 体	44.6%	53.0%	2.4%
水 産 物 部	48.3%	48.7%	3.0%
青 果 部	37.4%	61.9%	0.7%
花 き 部	37.5%	55.0%	7.5%
食 肉 部	62.5%	37.5%	-

(16) 従事員1人当たり売上総利益

従事員1人当たり売上総利益は、全体では前年に比べわずかに増加した。部類別にみると、水産物部と青果部では増加し、花き部と食肉部では減少した。

従事員1人当たり売上総利益(表2-20)

	平成30年	令和元年
全 体	1,109 万円	1,138 万円
水 産 物 部	958 万円	1,002 万円
青 果 部	1,254 万円	1,308 万円
花 き 部	792 万円	741 万円
食 肉 部	1,602 万円	1,559 万円

従事員1人当たり売上総利益が増加した業者数と減少した業者数の割合を部類別にみると、水産物部と花き部で増加した業者が減少した業者を上回った一方で、青果部と食肉部で減少した業者が増加した業者を上回った。

従事員1人当たり売上総利益の増減(表2-21)

	増加した業者	減少した業者	不明
全 体	50.7%	46.9%	2.4%
水 産 物 部	53.7%	43.3%	3.0%
青 果 部	46.2%	53.1%	0.7%
花 き 部	47.5%	45.0%	7.5%
食 肉 部	45.8%	54.2%	-

(17) 従事員1人当たり人件費

従事員1人当たり人件費は、全体では前年に比べ増加した。部類別にみると、水産物部、青果部及び食肉部では増加し、花き部では減少した。

従事員1人当たり人件費(表2-22)

	平成30年	令和元年
全 体	530万円	560万円
水 産 物 部	514万円	559万円
青 果 部	560万円	593万円
花 き 部	402万円	379万円
食 肉 部	578万円	604万円

従事員1人当たり人件費が増加した業者数と減少した業者数の割合を部類別にみると、水産物部、青果部及び食肉部では増加した業者が減少した業者を上回り、花き部では減少した業者が増加した業者を上回った。

従事員1人当たり人件費の増減(表2-23)

	増加した業者	減少した業者	不明
全 体	51.3%	46.3%	2.4%
水 産 物 部	51.7%	45.3%	3.0%
青 果 部	50.9%	48.4%	0.7%
花 き 部	40.0%	52.5%	7.5%
食 肉 部	66.7%	33.3%	-